

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
1	主管会議	校長	総務・人事係	16	①本校の重要事項について適切に審議した。 ②定例会議13回、臨時会議13回（うち、1回はメール開催）開催。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。次第についても見直しを行い、運営会議と重複する報告事項について削除し、簡略化した。	特に無し	主管会議・運営会議：共通 会議は良好である。	○	主管会議・運営会議：共通（R3の改善事項「主管会議と運営会議の開催順の改定について注目したい。」を踏まえ） 主管会議と運営会議の開催順の変更という本校の学校運営決定方法の大変革を行った後であり、 ・主管会議・運営会議構成員 ・主管会議・運営会議構成員以外 にわけて、アンケート調査などにより会議開催順変更による学校運営方法の良否などを分析しておく必要がある。	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議（協議）→主管会議（審議・承認）→教員会議（報告・周知）の流れで開催し、主管会議では本校の重要事項について審議する。 ②年間13回の定例主管会議（毎月1回※3月は2回）および、緊急を要する場合には臨時主管会議を適宜開催する。 ③運営会議・教員会議その他委員会等の意見・要望を考慮しつつ、適切な審議および判断を下す。
2	運営会議	校長	総務・人事係	14	定例会議13回、臨時会議1回 ①本校の運営事項について協議した。 ②定例会議13回、臨時会議1回開催。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議した。 この他引き続き会議資料をペーパーレスとし、経費削減・業務削減を行った。また、主管会議より先に運営会議を開催することで、運営会議で効果的に意見等を集約できるようになった。	特になし	主管会議・運営会議：共通	○	主管会議・運営会議：共通	①主管会議・運営会議・教員会議全体の運営体制として、運営会議（協議）→主管会議（審議・承認）→教員会議（報告・周知）の流れで開催し、運営会議では本校の運営事項について協議する。 ②年間13回の定例運営会議（毎月1回※3月は2回）および、緊急を要する場合には臨時運営会議を適宜開催する。 ③各学科・その他委員会等の意見・要望を共有しながら、適切に協議する。
3	スパイラルアップ会議	校長	企画・研究協力係	1	①本校の各種点検に関することについて、調査および審議した。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図った。	特になし	適切に実施されている。	◎	岐阜高専のPDCAサイクルの根幹をなす会議であるため、審議内容の周知が必要である。	①本校の各種点検に関することについて、調査および審議する。 ②点検評価・FU委員会および将来計画委員会と連携し、本校の会議・委員会等の活動や点検評価、FD活動のブラッシュアップを図る。
4	教務会議	教務主事	教務係	34	①入学志願者数の回復を活動基本方針とし、継続的に入試広報活動の分析・改善を進めた。 ②コロナ禍における効果的な授業の実施方法について、継続的に審議・提案した。	適切に審議され、実施した。 参加会において教育の質保証重点6項目の現状について報告し、学外委員からの評価を受けた。	良好である。	◎	なし。	①入学志願者数の回復を活動基本方針とし、継続的に入試広報活動の分析・改善を進める。 ②教育の質保証重点6項目について、過度に教職員の負担にならないよう配慮しつつ、取り組みについての広報を行う。ポートフォリオと中学校のキャリアパスポートとの連携についても検討する。
4	-1 FD活動推進会議	教務主事	教務係	2	①FD講演会を2回企画・実施した。 ②授業参観を2回実施した。	適切に審議され、実施した。	良好である。	◎	なし。	①FD講演会を企画・実施し、FD活動を推進する。 ②授業参観を実施する。

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
5	専攻科会議	専攻科長	教務係	13	定常的な専攻科運営に加え、入試方法の改善、学生のインターンシップ参加、特別研究1審査会等に関する改善、特例適用の変更届への対応について実施した。 ①入学定員と実入学者数との乖離を縮小させることに関しての検討を行い、R7年度専攻科入学選抜より一部実施方法を変更することを決定した。 ②コロナ禍の状況を鑑みて、次年度以降より、特別実習1実施方法をコロナ禍前の方法に戻すことについて検討した。 ③特別研究1の審査会の一部を変更し、優れた英語によるポスターについては優秀作としてweb公開することを決定した。 ④特例審査の変更届出により、新たに指導教員7名と個表8件が適判定を受けた。 ⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、海外インターンシップ事業が復活して実施された。 ⑥豊橋技術科学大学との「先端融合テクノロジー連携教育プログラム」における第二年度目の修了生1名が輩出され、教育課程の妥当性を確認した。	活動状況は良好である。 改善すべき事項は特になし。	良好である。	◎	なし。	コロナ禍の状況を鑑みて、特別実習1実施方法をコロナ禍前の方法（実質10日間のインターンシップを必修とする）に戻す予定である。 R5年度に実施される「特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査」に対して、計画的な準備を行い、その対応に取り組む。
6	学生会議	学生主事	学生係	35 うち1回は臨時	定例会議の主な議題を次に示す。日常的な交通安全指導・校内巡回状況の情報共有し、校内の風紀維持に努めた。学生会の活動と行事の進捗と運営について指導状況を共有し、健全で楽しい学生会活動となるように努めた。適宜、表彰、懲戒、奨学金への推薦について審議した。 その他会議では、学校運営に対して、卓越した学生に対する授業料免除基準の修正、学生心得のうち時代錯誤の箇所の修正、学生規程のうち運転免許の箇所の修正について審議を開始した。 R3年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、全ての学生会行事を実施できた。	活動状況は良好であり、エフォートも概ね適正である。本校の全体としての業務量が増す中、慣例的になっている規程や指導を今一度見直し、その必要性と業務削減を検討する。	良好である。	◎	なし。	高専祭を始めとする学生会活動を利用して、創立60周年の広報、本校の知名度向上、地域貢献、近い将来の入試倍率向上に繋がるような催し等を企画、実施する。 自動車運転免許取得に関する規程、各種の表彰に関する規程等を適切に見直し、学生、学級担任、学生会議委員、学生係職員の煩雑な手続きと業務を削減する。
7	寮務会議	寮務主事	寮務係	26	①寮務会議は予定通り適切に実施された。新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じて、寮の諸ルールや規則について、食事時間などを、1年間を通じて不断に見直し、柔軟に運用することに努めた。 ②寮生会活動は、コロナ禍のなかで開催方法等に工夫を凝らしながら、寮祭、総会、新年会などを実施することができた。 ③学外の学寮指導員による1週間の当直回数を増やすと同時に、点呼確認方法などの業務マニュアルを見直し、教員の当直業務負担を軽減した。	寮務会議の活動は概ね良好に行われている。 今後の改善事項としては、①コロナ禍で途絶えていた短期留学生の受け入れ再拡大に伴う、日本人寮生との交流の場の構築。②寮内での寮生同士による助け合い（ピアサポート）の場の構築、③成人年齢変更に伴う、成人寮生への適用ルールの見直し、④紙ベースの各種申請の見直しなど。	良好である。	◎	なし。	①定例会議を、前期は毎週木曜日、後期は隔週木曜日の開講期間に開催すし、安全で快適な集団生活を円滑に進める為の方策を講じる。 ②寮生会などを通じて、学び合いの場として寮という場と制度の基礎を構築する。 ③留学生と日本人学生の交流を進める。 ④寮内のセキュリティ向上と教職員の業務負担軽減に努める。
8	将来計画委員会	教務主事	企画・研究協力係	3	①入試改革検討WG及びIR分析チームによる活動を推進し、利用可能な入試情報の整理、アセスメントプラン、関連規則の検討を行った。 ②今年度の検討を踏まえて具体的な提案事項をまとめて、若手視点での本校の将来計画を検討した。	適切に審議され、実施した。	良好である。	◎	なし。	①入試改革検討WG及びIR分析チームによる活動を継続し、IRに基づく教学マネジメントを推進する。 ②中堅教員による将来計画WGを設立して多様な視点から将来計画することを検討する。
9	財務・施設委員会	校長	財務係・施設係	4	①今年度当初予算配分案については、光熱水費の大幅な高騰が見込まれる中、各部署からのヒアリングを実施したうえで、不足する光熱水費の予算を補填するための財源確保についての十分な審議を行い、配分額を決定した。 ②校内スペースマネジメントについて、令和6年度から教員定員が減ることなど各学科等の環境の変化を踏まえた適正な面積の再配分を行った。	活動状況は良好であるが、今後は施設の改修計画など構内施設の利用計画について、さらなる審議が必要である。	良好である。	◎	なし。	①令和5年度においては、施設整備費補助金概算要求事業や営繕事業など構内施設の改修・利用計画について、十分な審議をしていく。 ②令和5年度においても光熱水費の高騰が維持されることが見込まれる中、その財源確保についての十分な審議を実施する。

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
10	入試運営委員会	教務主事	入試係	6	①改正したアドミッション・ポリシー、面接評価基準に基づく入学者選抜を実施した。 ②入試方法の改善を検討し、編入学選抜の内容を一部改正した。	適切に審議され、実施した。	良好である。	○		①アドミッション・ポリシー、面接評価基準に基づく入学者選抜を実施するとともに、引き続き改善を検討する。 ②入試方法の改善を進める。
11	広報委員会	研究主事	総務・人事係	対面2 メール2	新しい電子出版形式で、高専日より令和4年度前期139号を発行した。令和4年度後期140号も編集を進め、令和5年6月の発行予定である。 本校の公式ウェブにおいて、トップページの写真を継続的に利用できる内容に更新した。	本校の公式ウェブに関しては、内容の更新や表現の工夫が要望されているので、この対応を進める。また令和5年度の本校60周年記念広報資料について、検討を進める。	コロナ以降滞っていた高専日より発行するとともに、岐阜高専公式WEBの改善にも着手している。	◎	引き続きWEBの改善に期待する。	広報委員会の構成員を、以下の4つに班編成して、本校の広報活動を広範囲で進めてゆく。 ・高専日より前期：令和5年度前期141号の編集と発行 ・高専日より後期：令和5年度後期142号の編集と発行 ・公式ウェブ改善：内容の整理と更新 ・60周年広報資料：記念式典用の資料の編集と発行
12	人事委員会	校長	総務・人事係	12	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行った。 12回開催。	特に無し	適切に実施されている。	◎	なし	①教員の採用・昇任の選考、教職員の人事管理、非常勤講師の選考について、随時適切な審議を行う。
13	安全衛生委員会	校長	総務・人事係 契約係 施設係	12	①安全衛生委員会規程に基づき防災対策（第2条）、環境保全（第3条）、安全衛生（第4条）に関する事項を審議した。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、新型コロナウイルス感染拡大についても情報共有および審議を行い、他の教職員に対しても感染予防を啓発する取り組みを行った。 また、熱中症の予防講習会、熱中症予防についての注意喚起・救急法講習会・ストレスチェック（外部委託）も実施した。	特に無し	着実に実施されている。	◎	なし	①安全衛生委員会規程に基づき防災対策（第2条）、環境保全（第3条）、安全衛生（第4条）に関する事項を審議する。 ②安全衛生に関する事項については、毎月1回委員会を開催し、教職員の危険防止・健康促進・労災防止等に関する事項を審議するとともに、新型コロナウイルス感染拡大についても情報共有および審議を行い、他の教職員に対しても感染予防を啓発する取り組みを行う。
14	点検評価・フォローアップ委員会	委員長	企画・研究協力係	3	①令和2年度受審査の大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を踏まえて、本校の外部評価「参与会」の方法を見直し、R04年度は6月末に「令和3年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を添付して改善状況を報告（観点1-1-③）した。 ②令和4年度は、R03年度に本点検評価・フォローアップ委員会の「中期計画ワーキンググループ」、「自己点検・評価実施ワーキンググループ」、「学習評価フォローアップワーキンググループ」が活動しやすいよう下記のようにWG長、副WG長を置いて活動を促進できたため、これを継続した。その結果、中期計画WGでは「年度計画達成状況（高専機構本部の書式）」の点検、自己点検・評価実施WGでは参与会の実施、学習評価フォローアップWGでは授業アンケートの電子化の試行を実施することができた。 【中期計画WG】 WG長：委員長，副WG長：1名 【自己点検・評価実施WG】 WG長：委員長以外教授，副WG長：2名 【学習評価フォローアップWG】 WG長：委員長以外教授，副WG長：2名	特になし	良好である。	◎		①令和2年度受審査の大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を踏まえて、本校の外部評価「参与会」の方法を見直し、6月末に改善状況を報告（観点1-1-③）する。R05年度は「令和4年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を添付して報告する。 ②令和5年度は、R03年度に本点検評価・フォローアップ委員会の「中期計画ワーキンググループ」、「自己点検・評価実施ワーキンググループ」、「学習評価フォローアップワーキンググループ」が活動しやすいようにWG長、副WG長を置いてから3年目になるため、さらに活動を促進する。

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
14	-1 中期計画WG	委員長	企画・研究協力係	2	①令和3年度の年度計画達成状況（高専機構本部の書式）の点検を実施し、その状況や課題に応じた令和4年度の年度計画を確認した。 ②令和3年度に本校の年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドラインを再検討し、下記のとおり評価することに統一したため、2年目となる令和4年度においても記述方法を詳細に点検した。 1) 『年度計画の策定及び実績実施状況の自己点検・評価に関するガイドライン』に準じているか。特に箇条書きの表記方法。（アラビア数字の箇条書きをやめて丸印の列挙で統一） 2) 「年度計画」と「実施状況」の記載項目が対応しているか。 3) 「年度計画」が定量的である場合には、「実施状況」も定量的に表現できているか。 4) 「問題点等」の列に、「○」、「△」、あるいは「×」の記載はあるか。	特になし	良好である。	◎		①令和4年度の年度計画達成状況（高専機構本部の書式）の点検を実施し、その状況や課題に応じた令和5年度の年度計画を確認する。
14	-2 自己点検・評価実施WG	委員長	企画・研究協力係	4	①令和3年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検評価結果をWebに公開した。 ②令和3年度に本校の外部評価組織である参与会の在り方を検討し、外部評価「参与会」の方法を見直し、参与会を9月に実施し、令和元年度及び令和2年度の2年間分評価を受け、「令和3年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を作成した。令和4年度は、外部評価「参与会」の方法を見直し2年目となるため、令和3年度分の外部評価を9月8日に実施し、「令和4年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を作成し、東海北陸地区の高専へ配布した。 ③令和3年度に学習評価フォローアップ点検 授業アンケート、教育目標に関する最低ラインの数値設定を全て3.5に決定したため、2年目となる令和4年度においても詳細に点検した。	特になし	良好である。	◎		①令和4年度に実施した岐阜高専の自己点検・評価規程に基づく自己点検評価結果をWebに公開する。 ②令和4年度分の外部評価（参与会）を9月 第1～3週 14:00～本校にて対面開催し、その参与会報告を受け、「令和5年度岐阜工業高等専門学校 外部評価報告書」を作成する。これを令和4年度には東海北陸地区の高専へ配布したので、全国の高専への配布を予定する。 ③令和3年度に学習評価フォローアップ点検 授業アンケート、教育目標に関する最低ラインの数値設定を全て3.5に決定したが、達成できていない項目もあるため、3年目となる令和5年度においても詳細に点検し、改善点等を提案する。
14	-3 学習評価フォローアップWG	委員長	企画・研究協力係	3	電子アンケート入力について11月13日に業者と検討し、Formsでの入力をR04年度後期に4年電子情報工学科で試行的に実施した。全教科を対象にR05年度から本格運用開始予定である。	特になし	良好である。	◎		①授業アンケートを全教科で電子化（Foems）する。 ②改定されたモデルコアカリキュラム、実験スキル計測について教育の質保証について、学習評価フォローアップ点検実施要領に基づき点検を行う。
15	国際交流室会議	室長(羽瀧)	教務係	1	①トビタテ留学JAPANの申請支援、JASSOによる短期留学などの学生の支援を行った。 ②シアトル未来理工系人材育成プログラムは沖縄でのホームステイという形で実施できた。エンパワーメントプログラムは、3月に実施した。放課後英会話は、新たにアドバンスコースを導入した。 ③交流協定の更新を行い、新規にシンガポールRepublic Polytechniqueと協定を結んだ。協定に基づき、本校では初めて、IUT lilleとシンガポールRPIに学生を派遣した。	①未来理工系人材育成プログラムは学生には好評であったが、本来の趣旨を達成するため海外で行うことが求められる。 ②JASSOの派遣可能人数が減ってきているのでタイプA(新規)で申請する必要がある。	良好である。	◎		①JASSOの協定派遣・受入は、新規プログラムを申請し、R06年度の学生交流を活性化させる。 ②シアトル未来理工系人材育成プログラムを実施する。 ③海外インターン、シアトル未来理工系人材育成プログラム等の研修に参加する海外で活動する学生を支援する。
16	人権委員会	事務部長	総務・人事係	2	①ハラスメントに関する案件の相談は無かったが、人権委員会としてハラスメントが発生した場合の対応について審議した。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努めた。	特になし	良好である。	○		①ハラスメントに関する案件が発生した場合、人権委員会として適切な対応を行い、必要に応じて第三者の導入を検討する。 ②その他人権やハラスメントに関する啓発及び研修の企画・実施を行い、人権侵害やハラスメントの防止に努める。
17	情報セキュリティ管理委員会	情報処理センター長	図書・情報係	0	①高専機構の情報関連規定の改正に合わせて情報セキュリティ教職員規定・同推進規定・同管理規定の改正を行った。 ②教学マネジメント・質保証で必要となる学生情報取扱要領の原案を作成した。	改善すべき事項なし	良好である。	○		学生情報取扱要領を制定して施行する。

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
18	情報セキュリティ推進委員会	情報処理センター長	図書・情報係	6	①サイバーセキュリティ対策規則に基づきサーバ及びクライアントのシステム台帳の整備を行なった。 ②情報セキュリティインシデントの内容について情報共有して注意喚起を行なった。 ③新入生対象の情報セキュリティ研修を実施した。 ④教職員対象の情報セキュリティ研修を実施した。 ⑤メール誤送信防止アドオンを導入して運用を開始した。 ⑥高専統一認証パスワードとMS365パスワードを統一し、高専パスワードポリシーに則ったパスワードへの変更を行なった。 ⑦標的型メール訓練の開封未報告者に情報セキュリティ関係責任者連名で注意喚起する対策を行なった。 ⑧令和3年度情報セキュリティ監査の指摘事項及び助言について実施可能な対応を行なった。 ⑨サイバーセキュリティ人材育成事業（K-SEC）の「セキュリティ教育導入のための授業見学会・教材見学会・ワークショップ」に参加した。	改善すべき事項なし	良好である。	◎		①教職員対象の情報セキュリティ研修を実施する。 ②新入生対象の情報セキュリティ研修を実施する。 ③情報システム管理台帳の更新を行う。
19	テクノセンター運営委員会	テクノセンター長	企画・研究協力係	8	■テクノセンター全般 ・本年度は、科学研究費保有課題代表者27件、共同研究11件、受託研究3件・受託事業1件、寄附金38件、助成金19件であった。 ・地域共同利用研究室を2名の教員に利用していただいた。 ・テクノシンポジウムを本校で開催した。 ・大学改革推進等補助金（高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業）に申請し、採択された。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協会の会報などをウェブ上で公開した。 ・岐阜テクノフェアへブースを出展した。ネットワーク大学コンソーシアム岐阜、岐阜大学地域交流協会、中部イノベネットと連携を通して地域連携を推進した。 ■技術教育部門 ・ものづくりリテラシー教育実習に113名、科学技術リテラシー教育に18名の単位認定を行った。	・活動状況は良好である。 ・地域連携協会の本校との連携について検討を行う。	活動は良好である	◎		■テクノセンター全般 ・地域連携協会、本校産学官連携コーディネータを通じて産学官連携を推進する。 ・テクノシンポジウムの開催。 ・高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業の取り組み。 ■技術開発部門 ・研究シーズ集、地域連携協会会報などをウェブ上で公開して情報発信する。 ・岐阜県工業会等外部機関との連携を通して地域連携を推進する。 ■技術教育部門 ・リテラシー活動を通して、学生の教育活動を行うとともに地域連携を推進する。
19	-1 科学技術リテラシー教育推進室	室長(飯田)	技術室	1	全学科からリテラシー教育のテーマが提案され、募集テーマ数は12であった。単位修得者数は本科113名、専攻科18名であり、過去最高を記録した。今年度はコロナ禍の影響で人数制限等の制約はあったものの、大小さまざまなイベントにおいて、学外での活動を行うことができ、また新規会場（モレラ岐阜）でのイベントも開催した。 ・5/9に学生の募集を開始した。 ・1/18に活動報告会を開催し、テーマごとにポスター発表	参加人数は例年増加しており、活動は非常に良好である。 全学科からテーマを提案できており、色々な学科の学生が混ざり1つのテーマに取り組む機会を与えられていることは、学科横断教育活動の観点からも有用な活動となっていると考えている。 例年参加学生が増加し、現在は参加者が全校学生の1割近くになっているが、リテラシー教育推進室員の教員は増えておらず、教員一人当たりの負担増加が問題	活動は良好である	◎		リテラシー教育活動を継続して毎年参加してくれる学生も増えており、令和5年度も多数の学生の参加者が見込まれる。参画する教員を増加させていくために、活動内容を限定せず、教育活動について多種多様なテーマで展開できるように、リテラシー教育推進室の規程を更新していく。
19	-2 若鮎連携推進室	研究主事	企画・研究協力係	1	令和4年度の若鮎会会長の所先生と会議を行い、以下の内容を検討した。 ・50周年記念事業で設置した記念碑の管理方法について検討した ・本巣市との連携事業については、岐阜高専の対応に変更した。 高専祭において、同窓会との懇談会を実施できた。	中核人材育成塾に関しては、地域連携協会を中心に、検討を進めることになった。若鮎会との連携については、コロナ禍を終えて、積極的な展開を企画したい。	活動は良好である	◎		令和5年度の本校60周年事業において、若鮎会との連携活動を強化する活動を検討する。
19	-3 知的財産委員会	テクノセンター長	企画・研究協力係	2	6/21に年金維持について、12/23に高専機構本部へ発明の譲渡について、メール会議で審議した。	発明届の提出に先立って、特許出願が行われたケースがみられたので、特許出願手続きの周知が課題である。	活動は良好である	◎		新規審査、審査請求対応、権利消滅審議等について適切に対処する。
19	-4 機器分析室運営委員会	委員長(羽瀧)	企画・研究協力係	1	①機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理した。 ②機器を利用する教員に対して講習を実施した。 ③会議を1回実施し、年度計画、役割分担などを確認決定した。 ④改修に伴う、改修中の仮運用を行なった。3月に新しい産官学連携ラボに移設した。	①産官学連携ラボに移設したが、4月からの運用方針が決まっていない。 ②規則が古いままである。	活動は良好である	◎		①機器のメンテナンスや消耗品の充填を行い常に機器が使用できるように保守・管理する。 ②申し込みがあった場合は、利用講習会を実施する。 ③会議を1回実施し、年度計画、役割分担などを確認決定する。 ④規則を改定し、新しい運用方法を定める。

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
20	メディア委員会	研究主事	図書・情報係	6	<p>■図書館部門</p> <p>1) 令和4年度は、当初の予定通り286日開館でき、一般利用者の制限も解除した。</p> <p>2) ブックハンティングを5月に実施した。</p> <p>3) 紀要は6編の論文を掲載・発行した。</p> <p>■情報処理センター部門</p> <p>1) 第1学年情報処理センターガイダンスにおいて、本校での学習に必要なスキルを研修を行った。</p> <p>2) 無線アクセスポイントについて、設置場所・管理者などを調査して、管理体制を明確にできた。</p> <p>3) 高専機構テナントAzure経費のさらなる削減のため、Moodleの利用時間の制限を行った。</p>	当初の活動計画に対応して、実施できた。	良好である。	◎		<p>■図書館部門</p> <p>1) ブックハンティングの参加者について、学生の自発的な参加を検討する。</p> <p>2) 試験期間中以外の日曜日も図書館センターを開館することを検討する。(学生の要望)</p> <p>3) メディアなどを活用して広報活動を行い、利用者の増加を図る。</p> <p>■情報処理センター部門</p> <p>1) コロナ禍の収束があっても、遠隔授業や情報リテラシーのスキルについては、教育を継続する。</p> <p>2) 教員室・研究室等で設置されているPC等について、網羅的な管理体制を構築する。</p>
20	-1 IT技術管理WG	情報処理センター長	図書・情報係	1	<p>高専統一ネットワーク導入に関する以下の作業を行った。</p> <p>①各種設定・認証方法等に関する打ち合わせを3回行った。</p> <p>②高専機構開催のネットワーク概要説明会に参加した。</p> <p>③設置業者との間で個別詳細打ち合わせを3回行った。</p> <p>④設置業者によるスイッチ等の調査シートへの回答を作成した。</p>	改善すべき事項なし	良好である。	◎	なし	なし
21	学生相談室会議	室長(櫻木)	学生係	10	<p>○①月1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行った。</p> <p>○②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を6月と11月に実施した。</p> <p>○③Teamsを利用したオンライン面談、電話相談は、長期休業中などに需要があり、実家が遠隔地であっても面談の様子を確認できるため効果が高く、対応を行った。</p> <p>○④1・2年生を対象に特活時間を利用して5月、7月メンタルヘルズ講座を、11月、12月にコミュニケーションに関する講演会を実施した。</p> <p>○⑤業務体制に合わせた関連規程の改正をを検討し、いじめ対策に関する業務について関連規程を改正した。</p> <p>○⑥8月のいじめ、11月のピアサポート、2月FD研修では教務主事と連携して、学生支援に関する講演会を開催し、学生支援の質の向上を図った。</p>	橋本特命教授、岡本保健師の参画を得て体制の充実を図ることができた。また、合理的配慮学生とその保護者に対して丁寧な対応ができたと考える。また、重大事案に対しても迅速な対応とその後のフォローを進めることができた。担任の先生方からの相談も増え、学生の学びやすい環境構築に組織として対応できていると考える。改善点として、規程等の制定時には想定していないことや、実際に動いてみて判明した部分も多く、実態にあわせて規程等の改正をすすめていくことが必要である。	良好である。	◎	なし。	<p>①月1回会議を開催し、学生支援に関する情報共有を行う。</p> <p>②学生の生活状況、ストレス状況などを把握するためのアンケート調査を行う。</p> <p>③学生やその家族メンタルヘルスを維持するため、Teamsを利用したオンライン面談、電話相談を併用する。</p> <p>④1・2年生を対象に、特活時間を利用してメンタルヘルズ、コミュニケーションに関する講演会を実施する。</p> <p>⑤業務体制に合わせた関連規程の改正をを検討する。</p> <p>⑥研修等により、引き続き学生支援の質の向上を図る。</p>
22	教員会議	校長	総務・人事係	8	<p>・定例会議7回開催、臨時会議1回</p> <p>①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図った。</p> <p>②感染症対策の観点から、teamsによるオンラインでの実施も併用した。</p>	活動内容については良好であったが、教職員の意見を聴く機会をより増やす。	対面での会議（オンラインとの併用）が再開し徐々にコロナ禍前に戻りつつある。	○	特になし	<p>①主管会議・運営会議にて審議および協議された事項について周知報告を行い、意見を聴き、本校の意思統一を図る。</p> <p>②年間7回の定例主管会議を開催する。</p>
23	学級担任会議	教務主事	教務係	4	<p>①4回の全体会議（終了後に学科別分科会）と研修旅行等関連の会議を対面開催し、学級担任間の連携を図った。</p> <p>②授業実施形態等に関する連絡事項は頻繁に発生したため、教職員及び全学生に対して教務主事から随時メール等での連絡を行った後、各担任によるフォローを依頼した。</p> <p>③LMSを利用した「e-ポートフォリオ」について検討した。</p>	適切に実施された。	コロナ禍にあり、急な学級閉鎖や定期試験時間割の変更など連絡体制がしっかりとおり臨機応変な対応がなされた。	○	学級運営や特活において、活動の見直しがなされたときには、会議において学級担任から意見を聞く機会を増やすことが望まれる。	<p>①4回の全体会議と研修旅行等関連の会議を開催し、学級担任間の連携を図る。学級担任会議では学級担任からの活発な意見が出ているため、引き続きこの形態を継続する。</p> <p>②引き続き随時教職員、学生への連絡体制を維持する。</p>

令和4年度 会議・委員会・部門委員会の活動, 評価等及び令和5年度活動計画

評価 : ◎、○、△、×

番号	会議・委員会・部門委員会名	委員長等	担当課・係	①会議開催回数 R4	②今年度の活動内容 R4	③自己点検及び改善すべき事項 R4	④評価概要 R4	⑤評価 R4	⑥改善事項 R4	⑦改善事項を踏まえたR5活動計画
24	クラブ顧問連絡会議	学生主事	学生係	3	定例である年間3回のクラブ顧問連絡会議を全て実施した。第2回の会議より、会議資料のペーパーレス化に従い、サイボウズを利用した会議資料の配布と提示にした。 課外活動は、各部の上位機関や本校の新型コロナウイルス感染症対策に従いながら行った。新型コロナウイルス感染症により、活動中止や大会出場辞退があったが、新型コロナウイルス感染症クラスターの発生はなかった。全国高専体育大会団体戦の種目のうち3位以上の学校を数えた結果、本校と松江高専が6種目で首位タイであった。	活動状況は良好である。ただし、各クラブ顧問でエフォートに幅があると推測される。	良好である。	◎	なし。	R4並みの活動を維持する。 各クラブ顧問でエフォートの幅は、公式戦を時間外業務命令にする等で補う。過年度のエフォートも考慮して、R6クラブ顧問の変更を検討する。
25	若鮎奨学基金運用委員会	校長	総務・人事係	1	①若鮎奨学基金について適切な管理・運営（表彰・助成金の助成）を行い、学生の課外活動や学会発表参加の促進を図った。	特に無し	良好である。	◎	なし。	①若鮎奨学基金について適切な管理・運営（表彰・助成金の助成）を行い、学生の課外活動や学会発表参加の促進を図る。
26	特別支援検討委員会	学生主事	学生係	4	配慮申請書の提出があった学生に対する検討を委員会で行った。	学生及び保護者からの要望に応じて適切に会を開催し、学生を支援できた。改善すべき事項はない。	良好である。	◎	なし	改善すべき事項はなく、引き続き、学生及び保護者からの要望を受けて、学生の学修や学校生活に支障が出ない様に適切に活動する。
27	男女共同参画推進室	教務主事	総務・人事係	2	①ダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善に活かされるよう検討した。女性教員用の更衣室の備品を整備した。 ②教員公募において現在、女性優遇の記載はない。（学科の任意で、女性の採用を積極的に進めている旨の記載をしている学科は有）	特に無し	良好である。	◎	なし	①ダイバーシティ推進の観点からの施設整備改善に活かされるよう体制を整え、関係者への情報共有を徹底する。 ②学生および教職員に対し、適切な啓発活動を検討・実施する。
28	リスク管理室会議	校長	総務・人事係	4	①学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じた。特に、今年度においては新型コロナウイルスに関し、迅速な措置を講じ、感染拡大リスクを抑えるよう努めた。また、新型コロナウイルス感染症に係る対応フローチャートおよび活動方針レベル対応表およびガイドラインの改訂を行い、教職員・学生が統一認識を持ち対応をする一助となった。	特に無し	適切に実施されている。	◎	なし	①学生等の安全・教育研究等にかかわる重大な事態や、本校の社会的信頼を損なう事態、施設管理上の重大な事態が発生した際に速やかに開催し、必要な措置を講じる。 特に、本年度においては新型コロナウイルス対策の緩和が実施されるため、適切な対策緩和を決定し、周知する。
29	キャリア支援室	教務主事	教務係	1	①令和4年度キャリア教育プログラム（共通・専門）の実施を確認した。 ②令和5年度キャリア教育プログラム（共通・専門）の計画を確認した。 ③学生のキャリアサポート、就職・進学関係情報提供を継続した。 （学習相談1件、進路相談7件、面接練習5件）	特になし	適切に実施されている。	◎	学生のキャリアサポートについて、校舎改修によるキャリア支援室移動の影響が気になる。比較的学生の往来が少ない場所であるため、利用度が上がるよう工夫した活動を期待する。	①キャリア教育プログラム（共通・専門）を継続する。 ②学生のキャリアサポート、就職・進学関係情報提供を継続する。キャリア支援室の移動に伴う利用度減少が起こらない工夫を行う。
30	いじめ対策会議	校長	学生係	8	定例の会議を8回開催し、年度計画の策定、活動評価、アンケート項目の検討、結果の把握、いじめ講演会の実施、外部評価等について実施及び検討した。	適切に実施された。	活動は良好である。	◎	なし	令和4年度と同様の事項を実施及び検討するため、会議の開催を年間6回予定している。併せて、公表の仕組みや情報発信についても検討する予定である。